



平成18年度の活動と反省

長崎県技術士会事務局 大橋 義美

平成18年度の活動状況は、下記のとおりです。

- (1) 平成18年度の通常総会を6月9日、諫早市(ホテルセンリュウ)に於いて開催しました。
今回は会員の参加が多いようにとの願いで、午後6時00分より総会と懇親会のみのお会としました。
参加者は35名で例年とほぼ同様な出席でした。本年度の取り組みは、情報の提供と研修会の活発化、地域との連携、そして会員の増強を重点に組み込んで行くことにしました。
- (2) 情報提供については、HPの開設、機関紙の年4回の発行、研究会等の開催情報の提供を行いました。
- (3) 研修会の活発化については、県全体として開催していたものに加え会員がより参加しやすいように「ミニ研修会」として、佐世保を中心とした県北、長崎を中心とした県南の夫々の地域での開催を実施しました。
①佐世保では、18年8月25日に研修会と懇親会を開催しました。参加者は23名です。
講師は、会員以外の技術者として城野清治氏((株)海洋開発技術研究所代表取締役社長)をお招きして「水の流れと技術開発」という講演を行って頂きました。
又、佐世保地区で長く技術士活動を行われている柏原公二郎先生(技術士:応用理学(株)昭和ボーリング 統括技術部長)に「アスベストの鉱物学的特徴と鑑定法」について講演を御願いました。
②長崎では、19年1月31日に研修会と懇親会を開催しました。参加者は19名です。
講師は、会員以外の技術者として鈴木悟氏((株)大島造船所)をお招きして「長崎県内の新形式橋梁事例紹介」演題で講演を行って頂きました。
又、池山加奈恵氏(長崎市福祉保健部)に「予防医療の立場から健康管理について」講演を御願いました。
③テクニカルツアーについては、18年11月北九州で開催された「福岡水素エネルギー社会近未来展2006」を企画しましたが参加者が少なく残念ながら断念しました。
- (4) 地域との連携では、佐賀のNPO 法人技術フォーラム主催の「技術懇話会」(18/11)での協賛と講師派遣を行い、当会からは、久原俊之氏(水産部門)が講師として「九州地方に栽培される昆布の有用成分フコイダン等を用いた保健機能食品の研

(5) 日本技術士会員加入の状況は、長崎地区の登録技術士(19年3月31日現在の支部資料を参考)が203名で、既会員が60名で入会率30%です。センター会員が12名であり全員入会して頂ければ合計72名、入会率36%となりますので、センター会員のみでなく未加入の技術士の方々へは本稿を借り入会を検討して頂くようお願いいたします

(6) 地域との連携については、積極的に行い「技術士」の知名度をUPする必要があると考えます。
このため、各種の技術研究発表会等の情報がありましたらご連絡を頂き、会員への情報提供を行い研修の場が広がればと思っています。
法人技術フォーラム主催の「技術懇話会」については、18年度も本懇話会に対しては、長崎県技術士会として開催の協賛と講師派遣を考えていますので講師依頼の際には宜しく御願致します。

(7) 会の活性化のためには、まだまだ課題も多く解決のためには更なる努力が必要な状況です。平成19年度は前進した活発な活動が出来るように計画して行きたいと考えています。

若者の理科離れについて思うこと

(株)大島造船所 若杉泰昭(建設部門)

国が科学技術創造立国の実現をめざそうとしているのは、最近の若者の理科離れと無関係ではないのかもしれない。

私が学生のときは、解法はさまざまだが、答えがひとつしかない数学や理科がすきであった。答えが幾通りもある国語などは好まなかった。中学生の娘に聞いてみると、私の場合と逆らしい。理由を尋ねると、先生が嫌いだし、数学や理科が将来役立つとは思わないからだ。

ちょっと待てくれ。娘に話した。島国で資源が乏しく、国土が脆弱な日本は、材料を輸入して製品を製造し、それを輸出しなければならない。安全、安心、便利に暮らすために、身の回りの生活にかかせないものを整備しなければならない。これには科学技術が不可欠なんだよ。

まわりを見渡してみると、会社のトップ、役所のトップ、政治家など文系出身が多いようだ。また、昇進も概して文系出身者が早いらしい。理系で博士課程に進もうものなら、企業から敬遠されて就職もままならないとのこと。

そういうわけで、親も自分の子供を大学の理系にはやりたがらないらしい。

では、若者の理科離れを阻止するにはどうしたら

究並びに販路開拓を行う連携体の構築」と題して講演していただきました。

地元で生産される昆布を用いた健康食品の開発、関係者との実証実験、販売等について、又、養魚飼料に対する調査・研究等貴重な経験談等を話していただきました。長崎より会員6名参加しました。

その他、(財)長崎県建設技術研究センター主催の「2006建設技術フォーラム」(18/10)や環境協会の研修会(18/12)での後援等を行っています。

又、長崎県科学技術振興局の小中学校の研究者等訪問授業に対し、本田圭助氏(機械)、上戸好美氏(金属)、松本直哉氏(応用理学)の3先生を講師として推薦し登録してもらいました。尚、19年度は更に木原真氏(建設)を推薦し4名の先生が登録されています。

(5) 会員の状況は、年度始め103名が退会2名、新規加入3名で、現在計104名となっています。

反省点及び今後の活動に対する要望としては、下記のもの挙げられます。

(1) 総会や研修会への参加者が少ないことがあります。年数回の開催のため、多くの会員の参加を熱望します。現在104名の会員で20~35名程度の参加である総会や研修会出席者の増員が必要です。

(2) HPについては、多くの会員のアクセスを御願いと共、HPの充実が必要です。

このHPを活用し、会員同士の情報交換が活発に出来るシステムの構築が望まれます。

(3) 研修会については、年4回程度は開催したいものと考えます。将来は月例など定期的な研修会に発展することを期待しています

このためには、年度始めに予定(開催日、場所等)を決めて準備をすることも必要と考えます。

地区で開催する「ミニ研修会」の実施に当っては、特に若手の会員に企画からお願いしたいものです。又、テクニカルツアーとして現場研修会が出来ればと思っています。本ツアーは宿泊での見学会として観光や懇親会等も兼ねればとも考えますが。

このような、催しを通して会員同士がお互い顔を合せ情報交換などを行っていくことが会の活性化のためには先ず重要と考えています。

(4) 機関紙については、マンネリ化しないように編集者を会員持ち回りにするなども考えられます。

よいであろうか。まず、企業や役所の理系出身者の待遇を改善し、地位の向上を図ること。製造業で、自分が会社を動かしていると錯覚している文系出身者のいかに多いことか。主役は第一に現場。第二に研究、設計。総務、企画、経理、営業等はみんな裏方と言ったらしかられるであろうか。

親や学校の数学、理科教師の役割も大きい。授業内容以外に、ことあるごとに科学の楽しさや、どうして学ばなければいけないかも教えていかなければならない。理論ばかりでなく実験も多く行って、実際の現象を目で確かめさせることも大切であろう。そういうわけで、長崎県科学振興局の小中学校訪問授業事業はたいへんすばらしい企画だと思う。こういう事業を通して子供たちが数学、理科好きになってくれればと切に願っている。

平成19年度の通常総会について

本年度の総会を下記のとおり計画いたしていますので、予定に繰り込んでいただきますよう宜しく御願ひ致します。

詳細は後日ご連絡いたします。

日時 平成19年7月11日(水曜日)
14時30分~16時30分 研修会
16時35分~17時30分 総会
17時40分~ 懇親会
場所 ホテルセンリュウ
諫早市永昌東町13-29
(JR諫早駅前)

講師については、現在交渉中です。
多くの会員の出席をお願いいたします。

事務局だより